

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300398		
法人名	株式会社 アメニティライフ		
事業所名	グループホーム マーブルくらのうえ		
所在地	佐賀県鳥栖市蔵上町3丁目304		
自己評価作成日	平成27年2月11日	評価結果市町村受理日	平成27年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成27年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居、その家族との関係性が築けており、アットホームな雰囲気である。</li> <li>・重度化した方も多い中で、季節に合わせた食事や外出を可能な限り行っている。</li> <li>・かかりつけ医と訪問診療に加えて24時間体制において健康管理を実施している。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市内の閑静な住宅街の一部に立地している。中に入ると、写真や絵などが分かりやすく掲示され、明るく楽しい雰囲気が感じられる。入居者と近くの公園へ散歩へ出掛け、地域の方と交流したり、遊歩道を通る子供達と挨拶を交わすなど、地域の方と触れ合いやすい環境にある。また、夏祭りには地域の方の参加や協力もあり、自然な近所付き合いも行われている。職員も、穏やかな声掛けや対応、環境作りに努められ、アットホームな雰囲気が感じられるホームである。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、台所、事務所に理念を掲示して常に心掛けるようにしている。	玄関等への掲示や申し送りの際の読み上げをすることで思念の周知を図っている。管理者など新体制となり、理念をもとに新たにスタートを切りたいと考えている。	新体制となり、管理者、職員のチームワークが増すよう、理念の実践の振り返りや日々の業務での活用など、理念の共有と実践に取り組まれることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や庭の手入れに際に近所の方に声を掛けてもらったり、実際に手伝ってもらう事もある。	子供たちがホームの裏にある遊歩道から挨拶をしたり、帰りに寄って来られるなどの交流がある。夏祭りでは近所の方の参加や手伝いもあり、ホーム行事等への地域の方の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際にはあまりないが、地域の方より介護相談があれば受ける準備はしている。今後は自分達で発信したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者はやや少ないが、意見やアドバイスを活かすことができるようホーム内、もしくは会社全体でも改善に取り組んでいる。	年6回の実施をしており、本人や家族、行政の職員の参加がある。行事に合わせた開催をするなどの工夫がなされている。しかし、運営推進会議への地域代表の参加がなされていない。	運営推進会議について、民生委員や区長等へ、会議の意義や参加の促しを行い、地域の理解や協力も得られる会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政より細かいアドバイスを頂戴する事もあり、その都度その結果も伝えながら協力関係を取っている。	運営推進会議への参加や、行政機関に出向いた際に、書類作成や業務でのアドバイスを受ける等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを確認しやすい位置に置いている。年間の勉強会の中にも取り入れ今以上に周知していく予定。	マニュアルの作成や勉強会等で、身体拘束について学んでいる。医師の指示の下、24時間・2週間の期限付きで、ミトンを使用している。	期間限定ではあるが、常時着用ではなく、一緒に付き添える時間は外したり、検討会を開催するなど、身体拘束に頼らないケアに工夫にも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に互いに気付いた際に話し合いを持っている。また、年間の勉強会に取り入れ今以上に周知していく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに実際に利用した人はいないが、今後勉強会等を通して学ぶ機会を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を設けて納得がいくように説明している。その後、問題が挙がった際も解決に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し入居者や家族が自由に投函出来るようにしている。また、面会や運営推進会議の際には家族と積極的に会話をするようにしている。	家族の面会時や電話連絡時に、家族の意見を聞いている。節度を保ちながらも気兼ねなく話せる雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度、各事業所の管理者が集まり情報交換、意見交換をする場を設け改善できることは積極的に行っている。	概ね月に1回、業務の見直しをしている。管理者は、職員の表情等を見て、個別に声をかけたり、主任と連携して、意見を聞くなど、意見や提案を出しやすい体制作りを行っている。出された意見は運営会議へ挙げ、活かすように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正式な形としては場は設けていないが、個々に話を聞き解決に努めている。必要時は経営者にも報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	4月より年間計画を立て、ホーム内での勉強会を毎月行う予定。現在は、出来る限りの中で外部研修に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通して、積極的に交流の機会をもてるよう努めている。また、病院の相談員等とも顔なじみの関係ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活状況や不安、要望等を聞き、安心・安全な生活を送れるよう話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居時に家族と不安なことや要望等を確認し、安心して頂けるような対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にグループホームだけではなく、介護保険自体の説明を行い、選択肢を広げて頂くことも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の意志、尊厳を尊重しつつ、本人のできる事はできるだけ行ってもらい残存機能の維持に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時などに家族に直接近況報告を行ない、要望等があれば一緒に考え対応に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より、外出や連絡を取ってほしいとの要望があれば、家族と話し合い出来る限り対応している。	入居者の希望のお店に外食に行ったり、行けない場合でも食べたいと言えば、好きなものを買って食べてもらったり、また、外出先で知人と会う機会を作るなど、馴染みの関係の継続に努められている。集団での外出が多いところである。	個別の馴染みの場所へ出向くことに取り組まれ、入居者の生活が更に充実することに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日常生活の場の中で利用者同士が会話をできる環境作りを行なっている。また、コミュニケーションが難しい場合は言葉だけでなく、寄り添う事を重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もケアマネージャーや家族から相談があった際には、情報提供など出来る限りの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や本人・家族との会話の中からニーズを把握し、できる限り添えるよう努めている。	本人から要望を言える入居者は数名で、言葉でのコミュニケーションが難しい人に対しては、表情や仕草から察する様にしている。また、会話が可能な方については、部屋や事務所で話すなど、話しやすい環境に配慮している。くみ取った意向は、申し送り等で職員間で共有し、実現できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供や本人・家族とのコミュニケーションの中から必要な情報をできる限り収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が入居者の状態把握に努め、申し送りを利用し情報共有を行っている。また、必要であればその都度カンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行ない、本人や家族からの要望に添った介護計画ができるよう関係機関とも話し合いながら計画書を作成している。必要であればその都度、カンファレンスを行なっている。	3ヶ月毎や必要時にはその都度、作成・見直しを行い、本人や家族の意向に沿った介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りを通して、情報の統一化を図り、それを踏まえ介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、フォーマル・インフォーマルなサービスを含め対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、必要時には行政に協力を仰ぎ、可能な限り地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、連携している病院についての説明を行ない、ほとんどの方が訪問診療を利用しているが、本人や家族から希望があればその都度対応している。	家族へ、協力医についての情報提供の他、かかりつけ医がある場合のホームからの受診が可能な事を説明している。現在は、ほとんどの入居者が協力医の往診を利用している。随時家族へは状況を報告し、必要に応じて専門医を受診するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時や看護師訪問の際は、情報交換を密にしている。それ以外でも24時間体制で健康管理の協力を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に足を運び情報交換を行っている。また、普段からも相談員との関係構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、「看取り希望書」を記入してもらい、本人・家族の希望を聞いている。また、重度化・終末期になった際には、家族と改めて話し合いを行ない希望を聞き、主治医とも今後について方針を決めている。	契約時にホームの方針を説明している。重度化や終末期の場合には、出来る限り家族や本人の要望に沿えるよう、主治医を交え話し合いを行い支援している。また、緊急連絡先を居室に貼ることで、連絡がスムーズにできるよう工夫がなされている。また、勉強会等を通して職員間で終末期ケアについて理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や看護師より、応急処置や対応について指示を受け、対応できるよう努めている。また、マニュアルを作成しており全職員が把握できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、全職員が対応できるよう努めている。また、消防訓練を年2回行っている。今後は地域の方にも協力を仰ぐことができるよう検討していく。	年2回の消防訓練に近隣の住民の方が数回参加されたことはあるが、地域との協力体制としては十分ではない。また、火災以外の災害対策も不十分さがある。	地域の方が参加される夏祭りなどで、消防訓練の説明を行うなど、より地域の多くの住民から、理解や協力が得られるような取り組みに期待したい。また、地震や水害など火災以外の災害についても対策を作られることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った言葉の使い方やニュアンスに配慮し、日頃より職員同士でも話し合いができるよう気をつけている。	トイレ誘導の声かけやカーテン利用、入浴時の肌の露出軽減や必要時は同性介助等、羞恥心に配慮した支援に努めている。また、入居者に合わせた言葉遣いを行い、気になるときには注意をしようようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居時のニーズの把握は当然の事とし、普段の生活の中でも、思いを察知できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かを行なう際には無理強いをせず、本人の確認を取りできるだけ限り安全を考慮しつつ自由に生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択やひげの剃り方、口紅の色など、自己決定できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや季節の食材を取り入れ、メニューを作成している。準備や片付けはその日の入居者の状況に応じて、一緒にできることは行っている。	旬の食材や季節の料理の提供、行事の際にお弁当で配膳をするなど工夫がなされている。また、飲酒等の嗜好品の提供も体調面に配慮しながら提供し、食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を把握し、その方に合った食事形態や量を提供している。水分摂取量が少ない方には好みのものを提供し、摂取できるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っており、必要な方は歯科の訪問診療を利用し、口腔状態を保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、その人に応じた排泄誘導を行っている。オムツなどもカンファレンスの度に見直している。	排泄状況をチェックし、個別のパターンや習慣に応じた、トイレ誘導を行っている。また、排泄時の姿勢を整えることで、腹筋の筋力維持を図り、排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に繊維物を取り入れたり、体操などで便秘の改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週3回、入浴を行っている。曜日や時間帯も本人の体調や希望に合わせるよう努めている。	入浴日時は入居者の希望に応じて行っている。本人のタイミングに沿った入浴や順番の配慮など、意向に配慮している。入浴時はゆっくりと入ってもらい、コミュニケーションを図る時間として大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調や訴えに応じてベット臥床を行っている。また、日中の活動性を向上し、安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と提携しており、内服変更があるたびに説明を受けている。また、不明な点があればアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能なことはできるだけ自分で行ってもらう自立支援を促している。また、本人や家族から情報を取り、日々の生活支援の中で活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気候に合わせ、散歩や外出レクリエーションを行っている。また、入居者より行きたい場所の希望があれば、家族等と相談し、外出できるよう努めている。	外食やドライブを行っている。近所の公園に散歩に行く際には近所の人と一緒に付き添ってくれるなど地域との交流もある。しかし、個別の希望での外出支援については、機会が少ない状況にある。	誕生日月などを利用して、個別の希望に沿った外出支援を計画的に実施するなど、個別や少人数での外出の機会を増やすことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社会交流の一貫として、レクリエーションで外出した際に支払いを一緒に行なうなど工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を代筆したり、投函している。電話の訴えがあれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、飾りつけを行っている。また、フロア・廊下などは歩行しやすいように環境を整え、できる限り自然の光を取り入れることができるよう配慮している。	ホーム内は行事ごとの写真が分かりやすく掲示され、にぎやかで楽しい雰囲気が感じられる。また、季節ごとに室内の飾りも変えている。テラスからは、外の川が眺められるよう配慮され、側の遊歩道へ下りれるスロープを設置するなど、居心地よく過ごせる工夫がなされている。ホーム内の明るさの調整や職員の話す声、足音等にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに応じた安心できる居場所の確保に努め、トラブルの無いよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたなじみのものを使用し、自宅に近い環境を作っている。	人形やタンス等の自由な持ち込みがなされている。入居前に居室を見てもらい、自宅に近い配置を試みる等の工夫をして、自宅に近い環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室や場所を分かりやすく表示し、それぞれが自立して生活できるよう支援している。		